

Cat.No. 26010-96

マルキス試薬

- 取扱説明書 -

はじめに

本キットは、検体中の覚醒剤、麻薬等の薬物を簡単な操作で短時間に検出できるキットで、一般に知られているマルキス反応を応用した試薬キットです。

本反応は窒素原子を含むアルカロイド類の定性反応で、反応液が呈色し、判定が目視で行えます。

本キットは覚醒剤、麻薬等を同定するための、一次スクリーニング用キットです。

検出法

マルキス試薬による呈色反応

検出感度

およその検出感度は 10 µg です。

なお、検体の状況によって感度は若干変動します。

内容 (10 回測定用)

本品には下記の試薬が含まれています。

試験研究用以外には使用しないで下さい。

名称	容量・本数
試薬 (バイアル瓶) 89% 濃硫酸、3.5%ホルムアルデヒド混合溶液	0.5ml × 10 本
検体採取用さじ	10 本

測定方法

検体採取用さじで検体を数 mg 採取し、試薬の中に添加する。

検体と試薬が接触するように混合する。

反応液の色を観察し、薬物を判定する。

判定

参考文献 1 に示されている判定例を参考にしています。

反応液の呈色	判定 (疑い)
オレンジ色 (褐色)	アンフェタミン
オレンジ色 (緑青色)	メタンフェタミン
緑黄色	アンチピリン ペナドリール
紫色	モルヒネ、ヘロイン コデイン
無色	コカイン

判定上の留意事項

検体を添加して数十秒以内に呈色し、徐々に色が変化します。この呈色の様子より薬物を推定します。

本キットは窒素原子を含むアルカロイド類と反応します。そのため、これらの成分が夾雑成分として含有する場合は、判定に十分注意して下さい。

本キットは薬物の一次スクリーニング用キットであり、最終的にはガスクロマトグラフィーなどの機器分析法で同定、定量を行って下さい。

関連製品として、弊社の「シモン試薬 (Cat.No.37492-96)」もご用意しておりますので、併せてご利用下さい。

使用上の注意事項

試薬には 89% 濃硫酸と 3.5%ホルムアルデヒド溶液を使用しております。試薬が目や皮膚に付着した場合は、速やかに多量の水で十分に洗って下さい。(医薬用外劇物)

試薬が手に付着すると激しい痛みや皮膚の変性を生じます。使用の際には十分に注意して取り扱って下さい。

検体採取用さじは1回使い捨てになっております。繰り返し使用すると誤った判定となる場合がありますので、1度使用したさじは使用しないで下さい。

試験研究用以外には使用しないで下さい。

使用に際しては保護具を着用してください。

保存方法

直射日光や高温多湿を避け、箱に入れて冷暗所に保存して下さい。

廃液処理

測定後の廃液は専用容器に集め、適切に処理して下さい。

参考文献

1. 小嶋ら, 薬毒物の簡易検査法, (株)じほう, (2001) 127-141
2. 濱田ら, 日本薬学会編 薬毒物化学試験法と注解 第4版, 南山堂, (1992) 283-330



関東化学株式会社

試薬事業本部 試薬部

103-0022 東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号 (03) 6214-1090
541-0048 大阪市中央区瓦町2丁目5番1号 (06) 6231-1672
812-0007 福岡市博多区東比恵2丁目22番3号 (092) 414-9361

<< <http://www.kanto.co.jp> E-mail: reag-info@gms.kanto.co.jp >>

Cat.No. 37492-96

シモン試薬

- 取扱説明書 -

はじめに

本キットは、検体中の覚醒剤を簡単な操作で短時間に検出できるキットで、一般に知られているシモン反応を応用した試薬キットです。

本反応は脂肪族の第2級アミン類の定性反応で、反応液が呈色し、判定が目視で行えます。本キットは、主に覚醒剤を同定するための一次スクリーニング用キットです。

検出法

シモン試薬による呈色反応

検出感度

およその検出感度は10 μ gです。

なお、検体の状況によって感度は若干変動致します。

内容(10回測定用)

本品には下記の試薬が含まれています。試験研究用以外には使用しないで下さい。

名称	容量・本数
試薬 A (点眼瓶) 20%炭酸ナトリウム水溶液	1ml×1本
試薬 B (点眼瓶) 1%ペンタシアノニトロシル鉄()酸ナトリウム二水和物水溶液	1ml×1本
試薬 C (点眼瓶) アセトアルデヒド+エタノール混合溶液	3ml×1本
白色板	6穴×5枚
検体採取用さじ	10本

測定方法

検体採取用さじで検体を数 mg 採取し、白色滴板の1穴に添加する。

検体に試薬 A、B、C を1滴ずつ添加し、混合する。

反応液の色を観察し、薬物を判定する。

判定

参考文献 1 に示されている判定例を参考にしています。

反応液の呈色	判定(疑い)
橙赤 (赤~褐色)	アンフェタミン
青藍色	メタンフェタミン

判定上の留意事項

検体を添加して数十秒以内に呈色し、徐々に色が変化します。この呈色の様子より薬物を推定します。

本キットは脂肪族の第2級アミン類と反応します。そのため、これらの成分が夾雑成分として含まれる場合は、判定に十分注意して下さい。

本キットは覚醒剤の一次スクリーニング用キットであり、最終的にはガスクロマトグラフィなどの機器分析法で同定、定量を行って下さい。

関連製品として、弊社の「マルキス試薬 (Cat.No.26010-96)」もご用意しておりますので、併せてご利用ください。

使用上の注意事項

試薬 A は塩基性水溶液になっております。試薬が目や皮膚に付着した場合は、速やかに多量の水で十分に洗って下さい。

試薬 B は1%ペンタシアノニトロシル鉄()酸ナトリウム二水和物水溶液を使用しております。そのため、取扱いには十分注意し、試薬が目や皮膚に付着した場合は、速やかに多量の水で十分に洗って下さい。(医薬用外毒物)

試薬 B は長時間光に当てると、試薬が分解して失活する恐れがありますので、使用後は必ず箱に入れて保管して下さい。

試薬 C は「消防法による危険物第4類」に分類されております。使用または保管する際には、火気を避けて下さい。

白色板及び検体採取用さじは1回使い捨てになっております。繰り返し使用すると誤った判定となる場合がありますので、1度使用した白色板及びさじは使用しないで下さい。

試験研究用以外には使用しないで下さい。使用に際しては保護具を着用してください。

保存方法

直射日光や高温多湿を避け、箱に入れて冷暗所に保存して下さい。

廃液処理

測定後の廃液は専用容器に集め、適切に処理して下さい。

参考文献

1. 小嶋ら、薬毒物の簡易検査法、(株)じほう、(2001) 127-141
2. 濱田ら、日本薬学会編 薬毒物化学試験法と注解 第4版、南山堂、(1992) 283-330



関東化学株式会社
試薬事業本部 試薬部

103-0022 東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号 (03) 6214-1090
541-0048 大阪市中央区瓦町2丁目5番1号 (06) 6231-1672
812-0007 福岡市博多区東比恵2丁目22番3号 (092) 414-9361

<< <http://www.kanto.co.jp> E-mail: reag-info@gms.kanto.co.jp >>